

# 青山大人(あおやまやまと) 県議会報告かわら版58号



平成 26 年 3 月 21 日発行 青山大人事務所 土浦市乙戸 801-2

電話 029-828-7011 FAX 029-828-7012 メール [info@aoyamayamato.net](mailto:info@aoyamayamato.net)

★ブログでは主に県議会での活動について、フェイスブックでは、日常の活動やプライベートについて公開しております。是非、そちらもご覧になってください。

## ～青山大人(あおやま やまと)の略歴～

1979年土浦市生まれ。現在35歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に県議会議員初当選(当時、全国最年少の都道府県議会議員)。2010年12月の県議会議員選挙にて2期目当選。2008年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画ロケを地元へ誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。東日本大震災時は翌日から市内の水道復旧状況等をいち早くブログで情報発信し、一日での閲覧者が最大35000件を記録。また、福島県や宮城県への被災地支援活動が新聞等で大きく掲載される。県議会土木企業委員会、予算特別委員会。土浦消防団第27分団員(土浦市操法大会へ4度出場)。現在、某大学受験予備校にて、高校三年生に対して世界史の講師も務めている。

## ●平成26年度茨城県予算が決まる。

総額1兆900億円の茨城県平成26年度一般会計予算案の審議が行われた県議会が3月20日に終了しました。新年度予算の目玉を2つ挙げるとすれば、これまで我が会派も主張要望してきた現在小学4年生までと中学1年生を対象としている少人数教育を小学5、6年生までの拡大(これで中学1年生まで全学年で少人数教育が実現)と、医療費助成制度(マル福制度)の助成対象を外来については小学6年生まで、入院については中学3年生まで引きあげられたことです。

現在、小学2年生までは全国一律で35人以下学級であります。茨城県ではこれまで独自に基礎学力向上のため小学3、4年といわゆる「中1ギャップ」に対応するため中学1年に少人数学級を導入してきました。今回はさらに小学5、6年生まで拡大し、児童へのきめ細かな指導の充実を図るものです。「教育こそ国の礎」とも言われます。財政的に厳しい状況でも、将来を見据えた人材育成を推進することが、国を興すうえで何より重要だと思います。因みに財源として少人数学級拡大は、他の事業の見直しや廃止をすることで捻出したものです。これまで医療費助成制度は市町村独自で助成対象を拡げていたところもあるので、県が対象を拡大したことでこれまで市町村独自の持ち出し財源を他に回せることにもなります。

## ●地場企業の成長支援や雇用対策。

中小企業支援、海外への販路拡大、新産業創出、雇用対策という大きな4つの柱の下、これまでの議会での議論も取り入れた新事業がいくつかあり

ます。具体的には、生産力増強や生産性の向上、販路拡大、新分野進出などに取り組む中小企業が、処遇改善計画を策定し、従業員の処遇改善を図る取組を支援する事業、海外販路拡大のためにジェトロの誘致への取り組み、さらに次世代自動車や食品などの県が指定する4分野のベンチャー企業へ基金からの融資制度を創設。また、アニメやゲームなど若手クリエイターを育成するプロジェクトも新設。

雇用対策では、新年度も引き続き大卒等未就職者の早期就職を目的とするための研修や企業でのOJTを行い、県内に在住する大卒等未就職者200人を正規雇用に向け、就職希望者と企業とのマッチングを行います。

## ●委員会では市内の懸案事項を質問

今年から青山は土木企業委員会の担当。翌日の茨城新聞にも青山の質疑が取り上げられていましたが、今回は水に関する以下4つの質問をしました。

- ①木田余の境川の改修について。これは、中貫都市下水路の処理能力を上げ、板谷地区の農地冠水を防ぐ意味もあります。
- ②昨年秋の台風時に冠水した小山田地区とつくば市の境目の排水対策への取り組み状況
- ③藤沢新田周辺の桜川の竹の伐採
- ④昨年12月の一般質問に引き続き、水道の緊急連絡管の整備方針について、大震災時、新治地区への送水復旧が遅れたことを踏まえてのことですが、これについては、優先的に整備をするとのこと。

委員会では敢えて取り上げませんでしたが、地元の皆様から要望のあった神立や右叡の児童生徒の通学路である県道沿いの歩道の整備についても見通しがついたのであわせて報告させていただきます。